

常滑焼

受け継がれた千年の歴史と伝統

常滑と焼き物

愛知県常滑市は海上流通に便利な土地柄から、平安時代にはすでに日本を代表する陶器の産地でした。この時代に作られた焼き物は、一般に「古常滑」と呼ばれています。当時、焼き物を作っていたところは、「日本六古窯 常滑・瀬戸・信楽・丹波・備前・越前」と呼ばれていますが、中世常滑窯は、その中でも最も大きい生産地でした。
日本六古窯の一つに数えられる常滑焼は、平安時代末期には常滑を中心にして知多半島の丘陵地のほぼ全域に穴窯が築かれ、山茶碗や山皿、壺などが作られました。

やきもの散歩道

職人と生きる焼き物の街

中心市街地の小高い丘にある散歩道です。陶磁器会館からパンフレットを片手に、迷路のような路地の散策を楽しむことができます。

やきもの散歩道Aコース

レンガ造りの煙突や窯、黒塀の工場、陶器の廃材利用の坂道など、風情ある街並みと歴史を伝える空間を散策します。

やきもの散歩道Bコース

常滑焼の歴史や産業観光施設の INAX ライブミュージアムなど、見どころ満載です。

スタート地点

常滑駅



登り窯



創る



歩く



土管坂

観る

る



招き猫通り

